

児童朝会 校長の話 3月8日

10年前の2011年3月11日、東日本大震災という東北地方を中心にした大きな地震が発生し津波も発生しました。津波というのは沖の方から押し寄せる大きな波のことですが、このときは高さ15m以上もある巨大津波でした。押し寄せた津波は町をまるごと飲み込んでしまい（津波の記録写真を見せました）津波がひいた後の町はがれきの山となってしまいました。（町の様子の写真を見せました）多くの命も奪われました。



この写真は、高知県土佐高校2年生の高橋孝弥さんです。高橋さんの研究は日米合同学会の高校生部門で優秀賞に選ばれました。どんな研究かというと、住んでいる潮江地区の液状化研究です。液状化というのは大きな地震などで地面が揺れて砂と砂の間に含まれた水が押し出されて地上に飛び出し、地面が下がって落ち込んでしまう現象です。高橋さんは地区のどの辺りで液状化が起こるか資料を集めて自分で予測をしました。そして道路が何cmくらい水に浸かるか計算式を



作って調べました。これにより、水に浸かって避難できないところがあることが分かり、避難経路を変更していかななくてはならないことが分かりました。

高橋さんがなぜこの研究をしたかということ、10年前、小学校1年生の時に東日本大震災の津波の映像をテレビで見ました。その時の恐ろしさが忘れられず、命を落とす人を一人でも減らすことはできないか考え、この研究に取り組んだそうです。高橋さんは小学生の時に

見たり感じたりしたことをもとに、何か人の役に立つことはできないかと研究に取り組みました。そして素晴らしい成果を上げました。

皆さんも、今すぐに何かできなくても、見たり感じたりしたことを大切にしていくと、人の役に立つことができるかも知れませんね。

さて、緊急事態宣言が昨日で解除するはずでしたが、2週間延長されてしまいました。今までと同じように3密を防ぐために学校生活でできないことが続きます。いろいろできないことはありますが、1年生から5年生が6年生のために作ったお祝いロードを思い出してください。集まったり一緒に活動したりできなくても、気持ちを伝えたり人を喜ばしたり同じ思いになったりすることはできます。6年生が卒業し1年生から5年生が進級するまでの残る3学期、できることを見付けてみんなで力を合わせて心を通わせて生活していきましょう。